

平成 30 年度第 2 回北海道立帯広美術館協議会議事録

- 1 日 時 平成 31 年 2 月 28 日(木) 14 時 00 分から 16 時 00 分まで
- 2 会 場 北海道立帯広美術館 講堂
- 3 出席委員 吉田委員(会長)、東海林委員、大河原委員、天井委員、宮澤委員、原田委員、武田委員、高木委員、澤村委員、坂本委員、加納委員 計 11 名 ※欠席 1 名(笹原委員)
- 4 事務局 館長 石堂普之、副館長 芳村桐子、学芸課長 光岡幸治、総務課主査 佐藤朋和、主任学芸員 藺部容子、学芸員 野田佳奈子
- 5 傍 聴 者 なし(報道取材：北海道通信社帯広支社 1 名)
- 6 議 事

議事に入る前に、館長挨拶、展覧会鑑賞を行った後、会長の議事進行により議事に入る。

- (1) 平成 30 年度事業の実施状況について
- (2) 平成 31 年度事業の運営計画について
- (3) 協議・意見交換

7 会議記録

- (1) 開会挨拶(石堂館長)
- (2) 議事(議長：吉田会長)

<議事 1 平成 30 年度事業の実施状況について>

事務局：資料及びプロジェクター投影により、平成 30 年度の主な取組(アートギャラリー北海道、地域との連携、展覧会協賛事業)、展覧会・教育普及活動の実施状況、美術館評価(暫定)について説明

委 員：展覧会観覧状況の小中学生の人数が資料からは読み取れないのですが。

事務局：無料(免除、招待含む)観覧者数に含められています。

委 員：帯広美術館は、しらかばの会が子どもを無料招待する取組を続けてきていますが、今後も続けられるのでしょうか。親子で観覧することで、子は大人になっても自ら美術館に足を運ぶようになると考えています。

事務局：しらかばの会の協力により実現できています。全ての展覧会でということは実行委員会展もあるので難しいですが、可能な限り子どもたちが気軽に来館できるような機会を提供することが大切と考えています。

委 員：しらかばの会としては、平成 14 年度から無料招待事業を実施しています。会として当たり前の取組となっているので、途絶えることはないだろうと思います。親の方の割引などもできれば、美術館に更に足が向くのではないのでしょうか。

委 員：しらかばの会が続けている取組の功績は大きい。他ではなかなかない取組だと思います。自分はたまたま知っているが、この取組をもっと広く周知すべきです。

委 員：年間だいたい何人分ぐらいの予算ですか。

委 員：6 万～12 万の予算。会としては、道単独の展覧会を支援したいというスタンス。

委員：子どもということで考えると、子どもたちが楽しめる企画が近年増えてきています。
体験型の企画も帯広美術館では多くなってきており、それも親子で一緒に来るきっかけのひとつになると思います。

<議題2 平成31年度事業の運営計画について>

事務局：資料及びプロジェクター投影により、平成31年度展覧会計画を中心に説明

委員：以前、版画の刷り師によるデモンストレーションがあったが、北斎展でこういった事業は予定されていますか。

事務局：今回の北斎展では予定していません。

委員：子どもが見ると関心がより高まると思いました。予算の関係もあるので仕方ないか。

事務局：この北斎展は実行委員会展となっているため、先方と協議の上、企画しているところです。今回はそういった事業を組み込めていないことをご容赦願います。

委員：チームラボは、子どもの関心も高いだろうし、連れて来たいなと思います。広報を積極的にやると良いと思います。

事務局：本展は十勝毎日新聞社100周年を記念する展覧会でもあり、本日プレチラシをお配りしましたが、通常の展覧会よりも早い広報となっています。前売りも3月20日からスタートする予定です。

会長：小中学生の観覧料がなかなかの金額となっているがこれは仕方ないのでしょうか。
ほかに質疑がなければ、今回は2年間の協議会の最後ですので、意見や感想、これからの美術館に望むことなどを意見交流したいと思います。

委員：今日見学したアール・ブリュット展は素晴らしい。帯広市教育委員会と連携し、子どもたちが鑑賞できる機会をつくることはできないのでしょうか。このような展覧会をぜひ子どもたちに観てもらいたいと思いました。

事務局：会期が学校での団体観覧が難しい時期となり、多くの子どもが鑑賞できる場の設定としては課題が残りました。帯広美術館は、管内の教育委員会や校長会などの機会に情報提供しており、他館の状況は確認していませんが、市内・管内の多くの学校に利用されています。より一層利用いただくためには、学校での計画に組み入れていただけるよう、早めの広報等に努めていきたいです。また、教員向けの研修会により、美術館活動の理解を深めていきたいです。

委員：評価の資料で、ホームページのアクセス数が大幅に増えています。ホームページで子ども向けの企画などを効果的に情報発信することで、教員も情報を入手しやすくなるのではないのでしょうか。

事務局：ホームページは随時改善を図っており、アートギャラリー北海道の発信も影響していると考えますが、「魔法の美術館」会期中の7～8月のアクセス数が突出しています。子育て世代の情報収集はネット中心ということが考えられるため、ホームページ上の情報発信を工夫していきたいと思います。

会長：学校としては、早めに情報を得なければ、計画に組み込んだりバスの手配などもあるでしょう。

委員：ひとつの施設だけでなく、動物園と美術館というような体験機会を提供することも効果的では。我々関係者も、招待券などを有効活用し、周りの子どもや若い家族に声をかけていくことで、足を向けるきっかけをつくれればと思う。

委員：美術館評価について、前年度もそうだが評価が厳しいですね。99%ならBでも良いのではないかと思います。

委員：高校生について。美術部のない高校も多く、関心を持つことが難しい状況となっているので、高校生に向けた企画展などもあれば良いのではないのでしょうか。

事務局：高大生への働きかけは課題です。この世代が来やすいスポットになればと考えます。

委員：高校生、大学生の興味・関心はサブカルチャー中心。美術館に来る、ということはかなり難しいのではないかと思います。チームラボは（チラシデザインは）ちょっと子どもっぽいかとも思いますが、高校生も興味があると思います。やはり、これまでにないような多様な企画が大切となるでしょう。

委員：バーチャル中心だからこそ、本物を観るというリアルな体験も大切にしたいです。

会長：図書館では、ボードゲームをやっています。若い世代はゲームの世界に入り込んでるので、そこから足を運ばせるところから始めなければならない状況でしょう。アール・ブリュットもそうですが、言葉を聞いただけでは分からないが、観ると本当に素晴らしい。まず入口として、足を運ぶきっかけをつくる必要があると思います。

委員：例えば、ロビーや講堂に高校生自身の作品を展示する機会をつくることも、美術館に来るきっかけの1つとならないのでしょうか。高文連に作品を出品しているので、連携できればと考えました。

委員：まずはロビーに、そして展覧会鑑賞へとつながる取組ができればいいですね。

会長：最後に、美術館から、ほかに何かありますか。

事務局：いただいたご意見を参考に、改善できることから取り組んでいきたいと思っています。

(議事終了)